

今後のH-BMSについて

～維持管理マネジメントシステムの高度化～

阪神高速道路株式会社 保全交通部

2020年11月16日

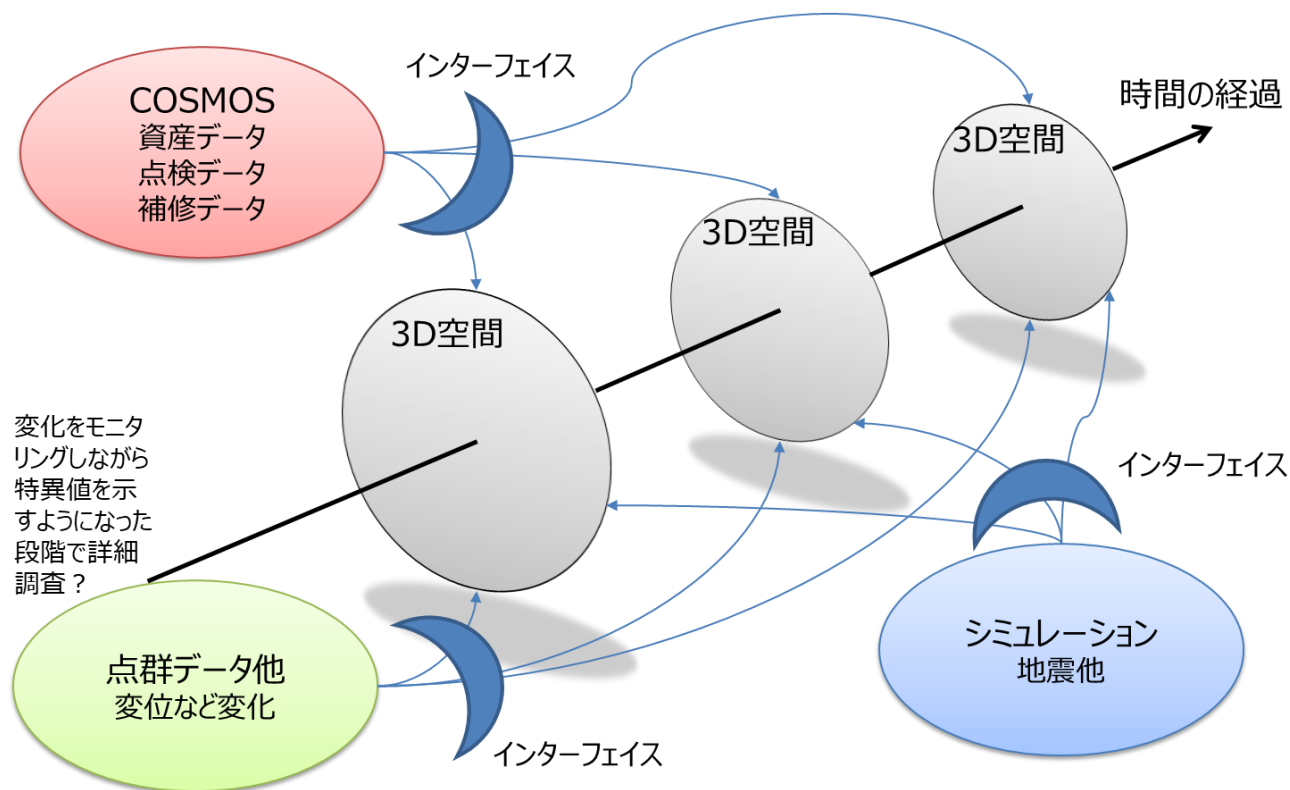
【第1回（4/19）】

- ①(アセットマネジメント)システムは完成させるということよりも、PDCAの2回目を回すにあたり、何が課題で何を分析せねばならないかを明確にし、改善していくことが重要。
- ②当時のH-BMSは世界的にみても最先端であり、阪神高速が培ってきたメンテナンス技術をどうアピールしていくかが重要。
- ③H-BMSの目的によって必要な水準が変わるので、その点を明確にしておく必要がある。

【第2回（11/18）】

- ①サイバーインフラマネジメントシステムのようなマネジメントが今後一つの流れになっていく中で、H-BMSをどのように進化させるのか。
- ②3次元化(3D化)を設計図から進めること及び点群データから変位・変状を把握することの2方法をどのようにハイブリッド化するのか。
- ③H-BMSの高度化は、議論をそのまま埋もれさせるのではなく、次の時代も最先端であるために成長させる方針がほしい。新しい技術をどのようにH-BMSに反映させるかを検討してほしい。

- 次世代のアセットマネジメントシステムは、①資産・目視点検データを収録した領域 (DB), ②FEM等のシミュレーションを行う領域, ③点群データを収める領域にある情報のうち、必要なものを3D空間に抽出・構成。3D空間は一定の時間断面ごとに形成、時系列に配列。
- 点群データは、構造物の形状が点群として保存され、差分により変位などが導出。
- 3D空間にどのような情報を載せるのかは、今後のマネジメントを考慮した議論が必要。



キーワード

4次元化
(点群・BIM/CIM)

方針(案)の概要

- ①イメージを掴むため、既存データを元にデモンストレーション用の3Dモデルを構築し、具体的な利用場面や点検方法を検討
- ②維持管理上で着目すべき橋梁を抽出し、3Dモデルを構築の上、点検結果などの蓄積を試行
- ③試行結果を踏まえた課題を解決し、本格展開を目指す